

財団法人蔵王酪農センター



理事長

小原 實 氏

◆企業の概要

企業名：財団法人蔵王酪農センター

代表者：理事長 小原 實

住所：刈田郡蔵王町遠刈田温泉字七日原
251-4

設立年：昭和35年

業種：酪農、乳製品製造業

資本金：-

従業員数：55名

◆事業の概要

昭和35年、神奈川県厚木市に酪農の電化・機械化による合理化を目的として設立。昭和39年に本格的実験農場を目指して蔵王町へセンターを移転後、ナチュラルチーズの実験製造工場建設や販売店舗建設により、酪農における生産から製品販売までの一貫体制を確立。宮城県を代表する「蔵王チーズ」ブランドで酪農、乳製品製造・販売の6次産業化に積極的に取り組み、新規事業として産業廃棄物の飼料化を目指す。



事務所・売店・工場棟



直売店内

「茶殻」と「乳清」を混合した家畜混合飼料の生産・供給を事業化、家畜混合飼料を与えて肥育した牛を「蔵王爽清牛」と命名し新たなブランド化を計画、地域活性化に結び付く事業として大きく期待



混合飼料生産設備



乳製品



放牧風景

◆受賞の理由

蔵王町では、大手飲料メーカーがペットボトルのお茶を製造した時に発生する「茶殻」が年間約650トン、当財団のチーズ製造過程で発生する「乳清（チーズホエイ）」が年間約1,400トン排出されており、その殆どが産業廃棄物として処分されている。これら産業廃棄物の飼料化（エコフィード）を目指し、平成20年より実用化試験を実施。はとむぎ・大麦・玄米等の穀類が含まれた「茶殻」と高蛋白・低脂肪で栄養価が高い「乳清」及び他の基礎飼料を混合し、乳酸発酵させた混合飼料の実用化試験を重ねた結果、安全で、牛の嗜好性、発育、血液成分等に全く問題がないことが証明された。

この結果を受け、「茶殻」と「乳清」を混合した家畜混合飼料の生産・供給を事業化。産業廃棄物として処理されていた大量の「茶殻」「乳清」の再資源化により、年間約3,000トンの混合飼料の生産を見込んでおり、資源循環型事業として大きく期待されている。

また当財団では、和牛と乳牛の交雑種にこの家畜混合飼料を与えて肥育した牛を「蔵王爽清牛」と命名し、蔵王町産牛肉の新たなブランド化を計画している。この「蔵王爽清牛」は和牛に比べ脂身が少なく、赤みが多いといった特徴をもつ牛肉で、今後地元の畜産農家等の協力を得ながら、蔵王ブランド牛として販売していく計画であり、地元の畜産業や飲食業・宿泊業等の観光事業の活性化に大きく貢献することが期待されている。

当財団の計画する家畜混合飼料の生産・供給の事業化は、資源循環型事業として期待されるだけでなく、蔵王町のあらゆる産業に様々な波及効果をもたらす事業として期待され、地域の活性化に結び付く事業展開を計画する当財団は高く評価される。酪農業を通じた地元観光事業の推進および地域の活性化に、今後も重要な役割を担う財団法人である。